

上顎無歯顎に対するNobelGuide(TM)を用いた NobelActive(TM)インプラントによる即時荷重に関する研究：1年間のプロスペクティブ臨床検査

山田，潤一

<https://hdl.handle.net/2324/1441153>

出版情報：九州大学，2013，博士（歯学），課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）



区 分	Ⓐ 乙
-----	-----

論 文 題 目 上顎無歯顎に対する NobelGuide™を用いた

NobelActive™インプラントによる即時荷重に関する研究：

1 年間のプロスペクティブ臨床調査

氏 名 山田 潤一

論 文 内 容 の 要 旨

近年、上顎無歯顎に対するインプラントの即時荷重による補綴治療について良好な臨床成績が報告され、臨床の場で幅広く行われるようになってきた。しかし、上顎無歯顎を対象に、サージカルガイドを用いてワイドスレッドテーパーボディーデザインの陽極酸化処理表面である NobelActive インプラントによる即時荷重を行い、その臨床成績を詳細に検討した報告はみられない。そこで本研究では、その臨床的有用性を検討することを目的とした。

上顎無歯顎部にインプラントによる補綴治療を希望して福岡天神インプラントクリニックに来院した患者のうち、選択基準に合致した 50 名（男性 27 名、女性 23 名、平均年齢 55.9 ± 8.3 歳）に対し、NobelGuide を用いて 4～6 本の NobelActive インプラントによる即時荷重を行い、1 年間の臨床成績（生存率、患者満足度、埋入トルク、咬合力、インプラント安定指数（ISQ）、辺縁骨レベル（MBL）、インプラント周囲軟組織の状態）を調査した。

50 名の被験者のうち 2 名が追跡不可能となったため解析対象から除外し、48 名（男性 26 名、女性 22 名、平均年齢 56.0 ± 8.3 歳、34～74 歳）に埋入した 278 本のインプラントおよびインプラント上部構造 48 装置について解析を行った。その結果、埋入後 1 年経過時点におけるインプラントおよびインプラント上部構造の生存率はそれぞれ、98.6%、100.0%であった。インプラント埋入手術時の埋入トルク値は 57.7 ± 16.6 Ncm であり、50 Ncm 以上のものが 225 本（77.6%）を占めた。インプラント埋入手術時間は 22.9 ± 4.7 分、術後疼痛の VAS 値は 14.7 ± 9.3 であり、術後に著明な腫脹がみられた被験者はなく、腫脹がまったく認められない者が 45 名（93.7%）、口腔内にやや腫脹が認められる者が 3 名（6.3%）であった。また、口腔関連 QOL（OHIP-J）については、術前は 77.0 ± 30.8 、暫間補綴装置装着後は 40.8 ± 26.5 、最終補綴装置装着後は 12.9 ± 14.8 であり、術前と比較して術後の有意な改善が認められた（治療前- 暫間補綴装置装着後 $P=0.000$ 、治療前- 最終補綴装置装着後 $P=0.000$ 、暫間補綴装置装着後- 最終補綴装置装着後 $P=0.000$, Scheffe の多重比較検定）。ISQ の経時的変化は、 66.02 ± 5.85 （埋入時）、 65.59 ± 5.74 （1W）、 64.82 ± 6.31 （2W）、 64.30 ± 6.68 （1M）、 66.52 ± 6.49 （3M）、 67.57 ± 6.34 （6M）、 68.55 ± 6.42 （12M）であった。また、インプラント埋入時からの MBL の変化量は、6 ヶ月後および 12 ヶ月後においてそれぞれ、 -0.31 ± 0.39 mm、 -0.32 ± 0.43 mm であり、6 ヶ月後から 12 ヶ月後までの変化量は -0.02 ± 0.14 mm であった。

これらの結果より、本法は良好な治療成績を示すとともに、手術時の患者の負担も小さく、口腔

関連 QOL の向上に有効で, かつ即時荷重後の MBL および ISQ の経時的変化等の臨床的指標も良好であったことから, その有効性が示唆された.